

資料蒐集

センターが独自に収集した貴重資料を、センター室内に随時展示しています。

平成14年度には、右の中井履軒賛「象図」（伝岩崎象外画）などの貴重な資料を収集いたしました。

また、従来は財団法人懷徳堂記念会が中心となっていた資料調査機能について、その一部が2002年より懷徳堂センターへ移管されました。これにともない、懷徳堂記念会の蒐集資料や所蔵写真に関する資料、および受贈雑誌などが本センターへ移管されました。



懷徳堂センターへのご案内

大阪国際空港より……

大阪モノレールにて柴原駅まで約7分。下車後徒歩約10分。
新幹線新大阪より……

大阪市営地下鉄および北大阪急行電鉄にて千里中央駅まで約13分。千里中央より大阪モノレールにて柴原駅まで約6分。
ＪＲ線大阪駅・各社線梅田駅より……

阪急宝塚本線にて石橋駅まで約15分。下車後徒歩約15分。

懷徳堂センター報

2003年3月31日発行

発行 大阪大学文学部懷徳堂センター

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1丁目5番地

06-6850-5088(センター室直通、fax兼)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>

KAITOKUDO

懷徳堂

大阪大学文学部
懷徳堂センター

センターの概要

文学部懷徳堂センターは、大阪大学大学院文学研究科および大阪大学文学部の附属施設です。

懷徳堂センターは、懷徳堂や文学研究科・文学部関連資料の「展示室」「情報資産管理センター」として各種事業を展開し、また財団法人懷徳堂記念会と協力して懷徳堂関係資料の情報蓄積・発信を行っています。

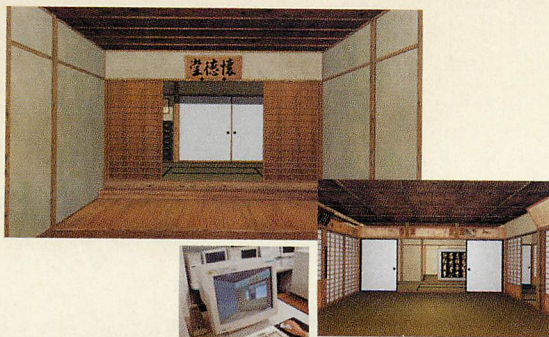


常設展示

懷徳堂センターの常設展示は、文学研究科・文学部の学術的特色を示すもので、現在は、懷徳堂文庫資料を中心とする電子展示等を行っています。

◆懷徳堂デジタルコンテンツ

「バーチャル懷徳堂」は、「旧懷徳堂平面図」（昭和6年に学主の子孫である中井木菟麻呂氏の記憶をもとに描かれた図面）と、『懷徳』9号に掲載されたわずかな記述だけを頼りに寛政8(1796)年



バーチャル懷徳堂

当時の建物主要部分を、コンピュータグラフィックスによって三次元空間に再現したものです。

なお、「バーチャル懷徳堂」の壁にかけられた額や拓本などの器物は、大阪大学の懷徳堂文庫に保存されている実物から作成された3Dデジタルオブジェクトです。

◆懷徳堂CGタペストリー

上記「バーチャル懷徳堂」のデータから出力された超高精細画像を、タペストリーに仕立てて展示しています。

◆貴重資料パネル展示

大阪大学が収蔵する貴重な遺書・遺物などを、写真パネルにして展示しています。



◆文学部見学会(2002.7.24.)

文学部見学会の一環として、各講座・研究室において「研究室開放」が実施されました。本センターにも高校生のみなさんを多数お迎えし、常設展示の見学や「バーチャル懷徳堂」の操作を体験いただきました。



学外展示

懷徳堂センターは、学内外のイベントにも積極的に参加し、懷徳堂の顕彰活動に努めています。平成13年度から14年度にかけては、下記のような事業に参加しました。

◆SEMBA博2002(2002.3.16.)

船場博実行委員会の主催により「船場博2002」が大阪産業創造館にて開催され、大阪大学大学院文学研究科も協力参加しました。



(SEMBA博2002)

◆大阪大学創立70周年記念事業イベント(2001.5.5~6.)

大阪大学創立70周年記念事業の一環として、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)にて記念イベントが開催され、「バーチャル適塾・懷徳堂」が、はじめて公開されました。本センターの電子展示は、この成果を継承するものです。

◆大阪大学いちょう祭展示会(2002.4.29.~30.)

「平成14年度いちょう祭」に伴う「いちょう祭展示会」が、大阪大学附属図書館6階ホールにて行われました。

文学研究科からは「江戸時代の在郷平野」(日本史研究室)、「古墳時代中期の石製品と武器」(考古学研究室)、「大阪大学中之島センター予定地(久留米藩蔵屋敷跡)出土の陶磁器」(埋蔵文化財調査室)の展示を出展し、また附属図書館所蔵の懷徳堂関係資料として、『論孟首章講義』など18点の貴重資料、「懷徳堂CGタペストリー」「貴重資料パネル」を展示

したほか、「懷徳堂デジタルコンテンツ(バーチャル懷徳堂・懷徳堂データベース)」「懷徳堂文庫電子図書目録」を出展し、通常の「見る」展示に加えて、「体験」する展示を試みました。

◆大阪大学総合学術博物館設立記念展(2002.10.12~20.)

大阪大学総合学術博物館の設立記念展が大阪歴史博物館等にて行われました。財団法人懷徳堂記念会および本センターからは、懷徳堂関係資料および「バーチャル懷徳堂」などを出展しました。



「バーチャル懷徳堂」演示説明(総合学術博物館設立記念展)



貴重資料展示(総合学術博物館設立記念展)

◆公開講座フェスタ2001(2001.11.28.)

大阪府立文化情報センターにて公開講座フェスタが行われ、懷徳堂センターの湯浅邦弘専門委員が「よみがえる懷徳堂」と題した講演を行いました。

◆国際シンポジウム(2001.12.8.)

NHK大阪ホールにて、国際シンポジウム「知の冒険者たち～近世大坂の学問と文化」が開催され、「懷徳堂とその時代」と題して、加藤周一およびテツオ・ナジタの両氏による記念講演が行われました。

また、「近世大坂の創造力」と題したパネルディスカッションが、加藤周一、テツオ・ナジタ、姜在彦、岸田知子の4氏、およびコーディネーター脇田修氏によって行われました。

◆扇町総合高校「大阪文化系列授業」(2002.11.1.)

大阪市立扇町総合高等学校において、本研究科の湯浅邦弘教授が本センターのデジタルコンテンツおよび懷徳堂記念会ホームページを活用した「懷徳堂」の授業を行いました。

◆懷徳堂秋季講座(2002.11.8～9.)

平成14年度懷徳堂秋季講座が開催されました。100回を越える同講座では初めて大阪大学附属図書館を会場として行われ、本センター職員を初めとするスタッフが懷徳堂文庫貴重資料の展示解説を行い、また、懷徳堂センターのデジタルコンテンツを展示し、来場者に体験していただきました。

懷徳堂センター委託管理資料

従来は財団法人懷徳堂記念会が中心となっていた資料調査機能について、その一部が2002年より懷徳堂センターへ移管されました。これにともない、懷徳堂記念会の蒐集資料や所蔵写真に関する資料、および受贈雑誌などが本センターへ移管されました。

懷徳堂とは

懷徳堂とは、享保9(1724)年に大坂の有力な商人たち「五同志」によって設立された学問所です。享保11(1726)年に幕府より官許を受け、江戸の昌平坂学問所とならぶ大坂学問所として公認されました。しかし、官許以降も、町人たちを中心とする半官半民の運営体制は続けられました。懷徳堂からは、中井竹山・履軒兄弟、また山片蟠桃や富永仲基など、特色ある町人学者が多数輩出したことも注目されます。

幕末以降の混乱などにより、懷徳堂は明治初年に閉校を迎えましたが、明治末年から大正初年にかけて市民の手により再建され(「重建懷徳堂」)、ながらく帝国大学の設置されなかった大阪において、市民によって運営される「文科大学」としての役割を果たし続けました。

重建懷徳堂の校舎は昭和20(1945)年の大阪大空襲によって焼失しました。しかし、罹災を免れた蔵書約3万6千点は、同24(1949)年に大阪大学に引き継がれ、大阪大学の文系諸学部のルーツとして新たな生命を吹き込まれたのです。

大阪大学は、重建懷徳堂の運営母体であった財団法人懷徳堂記念会と協力し、引き続き懷徳堂の研究および顕彰活動に努めています。

関係電子コンテンツの紹介

懷徳堂センターでは、センターに関わる様々な情報をwebページにて発信しています。また本センターのwebページは、財団法人懷徳堂記念会のwebページ、および『懷徳堂文庫電子目録』とも密接な協力を行っています。

大阪大学文学部懷徳堂センター

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>

財団法人懷徳堂記念会

<http://www.aianet.ne.jp/~kaitoku/>

『懷徳堂文庫電子目録』

<http://kaitokudo.jp/>